

# 新課程における 共通テスト(地歴・公民科)の 分析と求められる力

広島大学 教授 永田 忠道 (ながた・ただみち)

## 1 新課程における共通テスト(地歴・公民科)の概要

2025年1月の大学入学共通テスト(以下、共通テスト)で、地歴・公民科は新課程下での最初の実施となり、平均点(2025年2月6日時点)は、「歴史総合、世界史探究」が66.12点、「地理総合、地理探究」が57.48点、「歴史総合、日本史探究」が56.99点、「公共、政治・経済」が62.66点、「公共、倫理」が59.74点であった。分野別に見て、平均点については前年度までと比べてさほど大きな変化はなかった。

受験者数は、地歴科の中では「地理総合、地理探究」が125,622名と最も多く、「歴史総合、日本史探究」が114,599名、「歴史総合、世界史探究」が69,273名、公民科の「公共、政治・経済」は127,120名と両教科を通して最も多く、「公共、倫理」は29,042名であった。

これまでの履修科目ごとではなく、地歴科は総合科目と探究科目、公民科は「公共」と他科目、そして「地理総合/歴史総合/公共」から2科目を選択解答する試験科目構成となったことも新課程下での大きな特色である。そのため、個別の履修科目だけでなく科目をまたぐ力も求められるようにはなったが、平均点を見る限り、受験生にはそれほど大きな混乱はなかったようである。以下、主要な試験科目ごとのポイントとなる点を整理する。

## 2 「歴史総合、日本史探究」

試作問題とは異なり、「歴史総合、日本史探究」では旧来的な日本史の知識だけでは対応できない問題が出題されたことが話題となった。第1問が「歴史総合」の第1問と共通問題となっており、『大日本外交文書』や東シナ海と九州～関東地方の地図、アメリカ合衆国への出身地域別移民数のグラフから、「歴史上における境界」を主題にした内容が問われた。確かに旧来的な日本史だけでは難しいかもしれないが、「歴史総合」の趣旨をしっかりと学んできた受験生であれば十分に対応可能

問5 丸島さんは下線部⑤についてさらに探究するため、後日、「維新史料網要データベース」などを用いて、ミシシッピ号の寄港地と各地の流行時期を調べ、地図を作成した。地図から考えられる事柄をまとめたメモ1・2の正誤について述べた文として最も適切なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

5

地図 ミシシッピ号の寄港地と九州～関東地方のコレラ流行時期

メモ1  
関東地方でのコレラ流行が近畿地方・中国地方より早いのは、下田から感染が広がったからだと考えられる。

メモ2  
近畿地方・中部地方のコレラ流行拡大の起点となったのは、流行時期から見て、京都であったと考えられる。

① メモ1のみ正しい。                      ② メモ2のみ正しい。  
③ 二つとも正しい。                        ④ 二つとも誤っている。

図1 2025年度共通テスト本試「歴史総合、日本史探究」第1問 問5 解答: ①

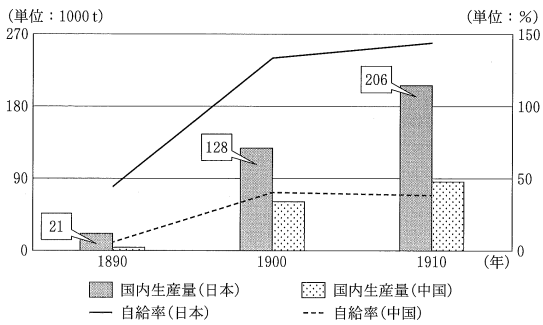
な良問ともいえる。九州～関東地方の地図はミシシッピ号の寄港地とコレラ流行時期を重ね合わせたものであり、この地図に関わる二つのメモ内容の正誤を問うている(図1)。また、アメリカ合衆国への出身地域別移民数のグラフから読み取り内容の正誤を問う問題も含めて、地図やグラフの読み取りとともに、世界とつながる日本の歴史的事象をいかに結び付けるような学びを経験できているかどうか、この先ますます求められそうである。

## 3 「歴史総合、世界史探究」

試作問題と比べると、「歴史総合、世界史探究」は世界史の知識で対応できる問題が中心的に取り入れられていることが話題となった。こちらは第1問が「歴史総合」の第2問との共通問題となっており、日本・中国・欧州の政治家・官僚・軍人とイランの女性の装いに関する資

問 4 下線部◎に関連して、洋服の素材生産に興味を持った高橋さんたちは、日本と中国における綿糸の生産量と自給率を調べて、グラフを作成した。綿糸の生産量に関して述べた文あ・いと、グラフから読み取れることに関して述べた文 X・Y とについて、最も適当なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 **4**

グラフ 機械製綿糸の生産量と自給率(1890～1910年)



(阿部武司『日本綿業史』、久保亨ほか『統計でみる中国近現代経済史』などより作成)

綿糸の生産量に関して述べた文

あ 綿糸の生産量は、力織機の台数から推計できる。

い 綿糸の生産量は、紡績機の錠数から推計できる。

グラフから読み取れることに関して述べた文

X 中国では、1910年の時点で、国内生産量が国内消費量を上回っていた。

Y 帝国議会開設後の10年間に、日本の国内生産量は5倍以上増加した。

① あーX ② あーY ③ いーX ④ いーY

図2 2025年度共通テスト本試「歴史総合、世界史探究」第1問 問4 解答：④

料や機械製綿糸の生産量と自給率のグラフなどから「装いの歴史」を主題に問う問題構成となっていた。こちらでの主題は必ずしも日本史の知識が十分ではなくても解答への壁は高くはなく、確かにかなり世界史寄りの「歴史総合」の出題となっている。また、装いに関する絵画や機械製綿糸の生産量と自給率のグラフの資料をもとにした出題になってはいるが、そこから問われる内容は思考よりも世界史的な知識をもとにしなければ導き出せない形式にもなっている(図2)。このような思考よりも世界史的な知識の有無を問う出題傾向が、地歴科の中では「歴史総合、世界史探究」の平均点が他よりも10点前後高くなった要因の一つとも考えられる。

## 4 「地理総合、地理探究」

試作問題では出題されなかった地域調査の大問が「地理総合」との共通問題の第2問として出題され、同じく第1問も「地理総合」との共通問題となっている。解答総数はこれまでと大きな違いはなかったが、これまでの「地理B」とは異なり大問数が試作問題と同じく6問となった。「地理総合、地理探究」はこれまでの地理関連科目の傾向と試作問題とのバランスを取ったかのような形式となっており、問題の内容自体もこれまでの傾向性に準じた形になっている。しかしながら、センター試験から共通テスト移行後も含めて今回の「地理総合、地理探究」の平均点は「地理B」以降で最も低くなったが、この要因の一つとしては6択および8択の問題数の多さとその複雑さを指摘できる。試作問題にあった9択は回

問 3 レオンさんは、東三河地域の農業がなぜ盛んになったのかを探るため、農家への聞き取り調査結果と、地元の図書館で調べた統計などを次の資料3にまとめた。資料3中のア～ウは、キャベツ、米、サツマイモのいずれかについて、1960年と2006年の収穫量を行政区別\*に示したものである。作物名とア～ウとの正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 **7**

\*2020年時点。

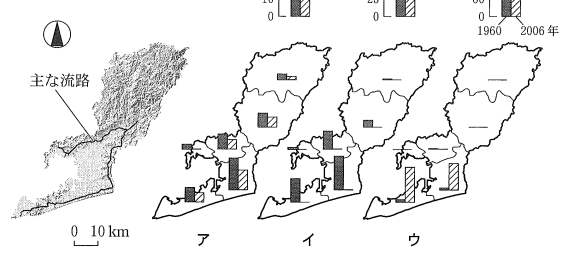
資料3 東三河地域の農業の地域性とその変容

【聞き取り調査結果】

- ・大消費地へのアクセスが向上した。
- ・豊川用水が1968年に開通したことで、栽培する作物が大きく変化した。
- ・東三河地域内では、地形や気候の違いによって作物の収穫量は異なる。

【各作物の1960年と2006年の収穫量】

【地形と豊川用水】



『愛知農林水産統計年報』などにより作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
キャベツ	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
米	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
サツマイモ	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

図3 2025年度共通テスト本試「地理総合、地理探究」第2問 問3 解答：⑤

避されているものの、このような出題形式によって問われる思考力は本来的な地理的思考や技能から外れてしまう危険性もある。今後は6択および8択を多用する出題のあり方や是非について、出題側で検討を進めていただきたいと願うところである。

とはいえ、今回の「地理総合、地理探究」でも地理学習また地理研究の鍵ともいえる地域調査に関する出題が旧課程から受け継がれたことや(図3)、各種の地図はもちろんのこと、多様な図表と画像も織り交ぜた地理ならではの出題傾向が継続されている点は、地理に求められる資質と能力に関する明快なメッセージとなっている。

## 5 「公共、政治・経済」「公共、倫理」

両試験科目ともに6問から構成される大問のうち、第1問と第2問が「公共」との共通問題となっている。試作問題から形式に大きな変化はなかったが、「公共、政治・経済」が試作問題と比べると複雑さが緩和された傾向がある中で、「公共、倫理」では第5問で新課程から新たに加えられた認知に関する心理学からの出題もあったことが話題となった。

「公共」との共通問題である第1問と第2問では、男女共同参画に関する新聞記事の要約、公共空間の形成に関する先生の説明、哲学カフェの参加者の発言などの資料とともに、性別役割意識と女性議員比率、時間のゆとりと自由時間の過ごし方に関する四つの表をもとにした出

問 2 下線部①に関連して、生徒Aと生徒Bは、仕事にかかわる性別役割意識について調べるなかで、内閣府の資料を見つけた。次の表1は、生徒たちが、その資料の中の二つの調査項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選んだ回答者数との合計の割合を、肯定的な回答割合としてまとめたものである。表1から読み取れることとして**適当でないもの**を、後の①～④のうちから一つ選べ。 **2**

表1 (%)

「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」への肯定的な回答割合				「同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ」への肯定的な回答割合			
男性 20代	26.2	女性 20代	14.5	男性 20代	20.4	女性 20代	11.0
男性 30代	25.6	女性 30代	17.7	男性 30代	20.7	女性 30代	10.4
男性 40代	27.2	女性 40代	23.3	男性 40代	17.6	女性 40代	10.4
男性 50代	32.2	女性 50代	24.7	男性 50代	15.7	女性 50代	8.4
男性 60代	31.2	女性 60代	28.0	男性 60代	15.8	女性 60代	9.4

(注1) 対象は全国の男女20代～60代である。  
 (注2) 各年代区分の割合は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」を選んだ回答者数の合計を基に再計算を行い、小数第2位を四捨五入した値である。  
 (出所) 内閣府「令和4年度 性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究 調査結果」(内閣府 Web ページ)により作成。

- ① 「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」への肯定的な回答割合は、女性20代～女性60代では、年代が上がるほど高くなっている。
- ② 「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」への肯定的な回答割合は、男性20代の方が女性20代よりも10.0ポイント以上高い。
- ③ 「同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ」への肯定的な回答割合は、男性20代と男性30代のみ20.0%を超えている。
- ④ 「同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ」への肯定的な回答割合は、60代において男女の差が最も大きい。

図4 2025年度共通テスト本試「公共・政治・経済」第1問 問2 解答：④

題がなされている。小問はいずれもしっかりとした表の読み取りをもとに的確に思考を働かせることができれば正答にたどり着ける可能性が高まる良問である ( 図4 )。

今回の新課程下での最初の共通テストで、地歴・公民科を通して最も多くの受験者数となった「公共、政治・経済」では、「公共」との共通問題である第1問と第2問以外でも、アメリカの消費者物価指数の上昇率と失業率の推移や6カ国の2000年以降の貿易収支と一人当たりGDP(国内総生産)との推移、「アラブの春」に対する世論調査など、グラフをもとにした多様な出題形式が取られており、しっかりとした読み取りをもとに的確に思考を働かせることができるかを問う姿勢が貫かれている。

「公共、倫理」については科目「倫理」の特性上からも、「公共」との共通問題以外では表やグラフなどを用いた多様な出題に難しさがあるところだが、今回からの新たな認知に関する心理学に関する第5問でわずかながらも文字情報以外の図形をもとにした出題が行われた ( 図5 )。

## 6 今後の地歴・公民科に求められる力とは

以上のような新課程下での最初の共通テストでの地歴・公民科の特徴としては、特に「地理総合、地理探究」と「公共、政治・経済」の出題傾向に象徴されるように、純粋な文字情報だけではない地図や画像、表・グラフなどの多様な資料の読み取りから思考を働かせることをさらに求める方向性を確認することができる。

場面1 生徒Fと生徒Gが、後の資料を見ながら次の会話をしている。

F: 記憶は、覚えていることだけを指すものじゃないんだね。

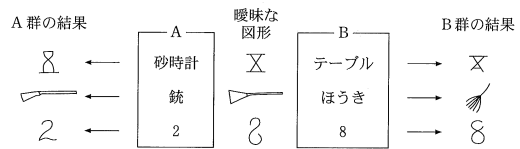
G: うん、心理学の本によると、記憶には、覚えるという「符号化(記録)」、覚えておく「貯蔵(保持)」、覚えたことを思い出す「検索(想起)」のこの三つの段階があるんだって。ちょっと、この資料を見てくれる? これは、**ア**に保持されている、言葉の意味についての情報が、**イ**の段階で図形の記憶に影響することを示そうとした実験なんだ。

F: へえ、記憶はもっと単純なものだと思ってたけど、実験の結果を見ると、言葉が表すものに引きずられて「記憶の変容」が起きることがわかるね。

### 資料

この実験では、参加者に図中央のような曖昧な図形を1枚ずつ順に提示した。提示前には「次の図形は〇〇に似ています」と口頭で伝え、A群の参加者にはAの枠内、B群の参加者にはBの枠内の語を〇〇に入れた。すべての図形を提示した後、参加者はできるだけ正確に図形を思い出して描いた。

この実験で参加者が描いた図形の一例が図下の左端と右端である。



※実際の実験では、曖昧な図形を12枚提示している。

(出典) Carmichael, L., et al., *Journal of Experimental Psychology*, 1932より作成。

問1 前の資料を読み、会話文中の空欄 **ア**・**イ** に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **23**

- ① ア 短期記憶 イ 符号化(記録)
- ② ア 短期記憶 イ 検索(想起)
- ③ ア 長期記憶 イ 符号化(記録)
- ④ ア 長期記憶 イ 検索(想起)

図5 2025年度共通テスト本試「公共、倫理」第5問 問1 解答：③

このような出題の傾向性は、地歴・公民科以外の他教科の共通テスト問題にも共通する方向性にもなっている。例えば、「国語」の第3問では外来語に関する意識調査についての複数のグラフ、「英語」では第8問での宇宙探査に対する世界的な政府投資と開発途上国への支援に必要な推定年間予算のグラフの他にも多様な図表の読み取りと結び付けた出題が定式化しつつある。

さらに今回から共通テストに加わった「情報Ⅰ」に至っては、第4問で観光庁が公開している旅行・観光消費動向調査のデータをもとにした三つの表と五つの図による出題となっており、この第4問については地歴・公民科ともほぼ共通する資質・能力を問う問題となっているといっても過言ではなさそうである。

今回の新課程下での最初の共通テストの特徴や傾向性から見えてくる今後の地歴・公民科に求められる力とは、地理・日本史・世界史・政治経済・倫理の関係科目それぞれの専門的な知識や技能とともに、地歴・公民科だけにとどまらず他教科も含めた専門知をつなぎながら、しっかりとした各種資料の読み取りをもとに的確に思考を働かせることができる探究力、あるいは高度な総合的類推力である。そのような力は、地歴・公民科の日々の授業の中で、さまざまな資料から思考・判断・表現したり、考察・構想をしたりできるような学習の堅実な積み重ねの先にこそ発揮できるようになるものである。